

第３回 岩木川魚がすみやすい川づくり検討委員会

日 時：平成 26 年 12 月 18 日（木） 15:00～16:35
 場 所：東北地方整備局青森河川国道事務所 大会議室
 委 員：東 委員 委員長（弘前大学農学生命科学部生物学科 准教授）
 泉 委員（弘前大学農学生命科学部地域環境工学科 教授）
 【欠席】南 委員（八戸工業高等専門学校建設環境工学科 教授）
 小野 委員（岩木川漁業協同組合 代表理事組合長）
 相坂 委員（蛭名委員代理）（青森県産業技術センター内水面研究所 調査研究部長）
 木田 委員（工藤委員代理）（弘前市上下水道部長）
 石塚 委員（東北地方整備局青森河川国道事務所長）
 【欠席】山谷 委員（東北地方整備局津軽ダム工事事務所長）

～ 議事要旨 ～

①弘前市上水道取水堰周辺における遡上環境の改善策について

- ・みお筋の変化は、かなりいい方向に変化しているので、ラバーダムの運用が維持できれば大きな問題はないと思われる。
- ・砂州は、出水の状況で変化するので、都度監視して対策を行っていく。
- ・魚道入り口の落差の改善は、弘前市の財産であるので、弘前市の方で施工する形態になると思われるが、理想案として「既製魚道ブロックによる段差解消」であるが、「袋詰め玉石工による段差解消」を試験的に行うことでよい。
- ・費用がかからないで試験的に進める工法で、弘前市と事務局で協議しながら検討を進める。

②アユの産卵床を含む瀬・淵の再生・保全対策について

- ・確認された産卵床が 3 箇所とは少ない。調査第一課で、過去に実施した調査では、もう少しあったと思うので、現在の状況との比較を行ってはどうか。

（既往調査では H13 に河川耕運を行った安東橋のみで産卵を確認）

- ・産卵床の環境的には、他にも適所があるが、藻類が更新されないことが課題である。津軽ダムで行っている土砂還元で、砂が流れると石がきれいになり、そこで産卵する。藻類がなくなれば水生昆虫が、きちんと生息するので、魚類も生息する。
- ・竹などを強く入れたりすることもある。過去に漁協でも実施したことがある。
- ・藻類が多い要因は、流域のリンゴ園にまいている肥料が入って来ていることや、目屋ダムからの細粒土砂が連結材となって堆厚させていることが考えられる。
- ・産卵床に関しては、河床の耕運は効果がある。また、清瀬橋の砂州掘削は、良い事例である。
- ・岩木川で河床耕運を行うには、子供だと危ない感じである。
- ・市民の引き出す仕掛けが、弘前市の方であれば協力頂けると良い。
- ・瀬淵の再生保全は難しく、一洪水来ると途端に変わるので、どういう粒径・流況のときに、生態系との関連性があるのかというデータを蓄積することが優先と考えている。
- ・断片的なデータで説明されるより、ある程度連続したデータであると議論がしやすいのではないかと思うし、アイデアが出やすいと思うので、この委員会が継続されていく予定だとすれば、全体像を時系列で見られるようなものがあると良い。

以上